

我がまちのチーム

和歌山箕島球友会



マラソン大会の運営を担う選手
和歌山箕島球友会提供

有田市 野球で全国発信

人口3万人ほどの地方都市から、「野球」で全国に発信しているのが和歌山県有田市だ。中心的存在は二つ。一つは公立校初の春夏連覇（1979年）を果たし、いまも全国レベルを維持する箕島高校。もう一つが今年、全日本クラブ野球選手権で3度目の優勝を果たし、30日に京セラドーム大阪で開幕する日本選手権に出る和歌山箕島球友会だ。相手も強豪・NTT東日本に決まり、市からの支援も受けつつ「企業チームから初勝利を」と、練習に熱が入っている。【長田舞子】

有田市はかつて「箕島高校」でその名を全国にとどろかせた。尾藤公（びとう・ただし）元監督（2011年死去）のもと、春夏計4回の全国制覇を果たし、最近では長男強（つよし）氏が同高監督として一昨年夏の甲子園に出場。「親子監督」で話題になった。

強氏ら同高硬式野球部OBを中心に96年に発足したのが箕島球友会。クラブ選手権に6回、日本選手権にも過去3回出場。日本選手権では未勝利だが07年には、優勝したトヨタ自動車と1-2の接戦を演じた。

選手は地元のスパーマーケット「松源」

人口増に貢献 奉仕活動に汗

が中心になって正社員として雇用。整った環境で野球ができる場を求めて毎年、約40人が入団セレクションを受ける。倍率は約5倍。希望者は全国から集まることが多い。結婚して家族が増えればそれだけ、人口は増える。確実に移住してくる選手がいることは、少子高齢化が進む町にとっても貴重な存在。人口減対策に奮闘する望月良男市長は「野球をする場を求めて若者が移住してくるのはこの町ならではの」と話す。

08年にNPO法人化。老人ホームや保育所の清掃活動、引越作業、マラソン大会の運営スタッフを担うなど地域貢献に励む。今年4月には総合型スポーツクラブをつくり、市民に体操教室やグラウンドゴルフ、テニス、体操などを指導している。県内唯一の社会人チームで「地域になくってはならない存在になろう」と努める。

活動は選手やスタッフ、賛助会員からの会費などでまかなわれているが、チームが強くなればなるほど活動費は増える。寄付金や会費だけに頼るのでは限界がある中で、有田市も支援に乗り出した。今年4月から「ふるさと応援寄付」（ふるさと納税）で、寄付先に球友会などのNPO法人を指定できる「NPO支援補助金制度」を導入。9月末までに球友会に対して約374万円の寄付の申し込みがあるという。

西川忠宏監督は「次から次に施策を打って出ないとクラブ運営は厳しいが、支え合いながら強くなる」と話している。